

『花火の由来』

日本花火の歴史は1543年鉄砲の伝来に始まる。鉄砲に使う火薬の需要と供給が拡大した。加賀の五箇山(白川郷)産の硝石が最良とされた由。

花火が文献に登場するのは徳川家康の一代を記述した「宮中秘策(1742年)」に、1613年(慶長18年)8月英国人セーリスが家康に引見した際に江戸城内で見せた、と記されているという。これが下って江戸花火になる。

<花火の科学；細谷政夫他>



『長岡花火の由来』

1840年(天保11年)長岡藩主牧野忠雅の川越移封の取り止めを祝って合図に上げた花火が始まりと言う。初回の花火大会は明治12年9月14、5日の二日間、千手町の八幡様(長工への曲がり角にある)の祭りに350発が打ち上げられた。

1945年(昭和20年)8月1日米軍B29 126機による長岡空襲があり1460余人が死亡した。この慰霊と廃墟となった長岡の復興を祈願して昭和21年に再開し、現在に至る。  
<長岡祭り協議会パンフ>

『花火の種類』

表1

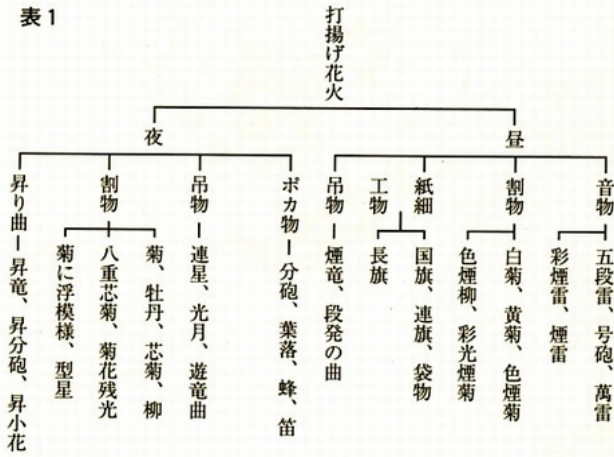
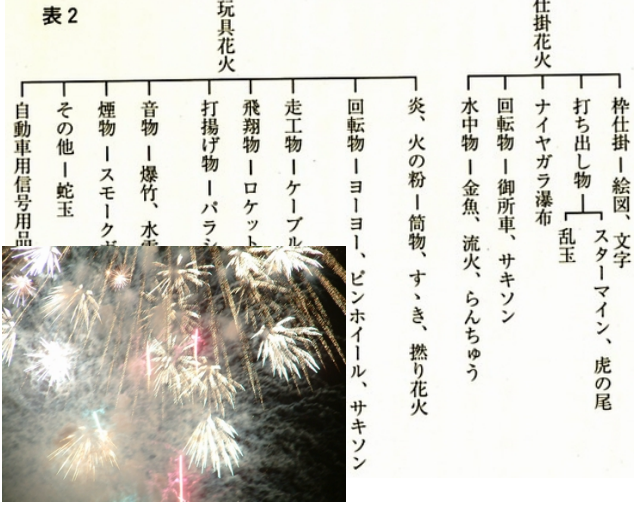


表2



『花火写真の考察』(花火写真の屁理屈をこねる)

●花火写真は難しいと言われる。確かに難しい。大きな迷い道は、普通の写真と花火は被写体が違うと言うことだろうか。通常の被写体は継続して反射光を出しているのに対し、花火は、発光体の移動であるから、同位置で継続して光っていない。

こんなことを考えると、花火写真の絞りは光の軌跡の太さになり、シャッター時間は軌跡(光跡)の長さになるのではないかと考えた。

●長岡花火の「尺玉連発」は横長フレームに入るか？  
500m先で上がる花火全体を入れるには右図から、35mmなどの短いレンズを使ったほうがよいようだ(35mm換算)。三尺玉はどうか、これは打上げ場所が1km以上遠方だから多分同様に取れると思う。どなたか三角関数でお確かめあれ。

<<下手な写真マニアの寝ぼけ言>>

参考文献；「花火の科学(前掲)」「花火百華」小野里公成

『花火のメカニズム』

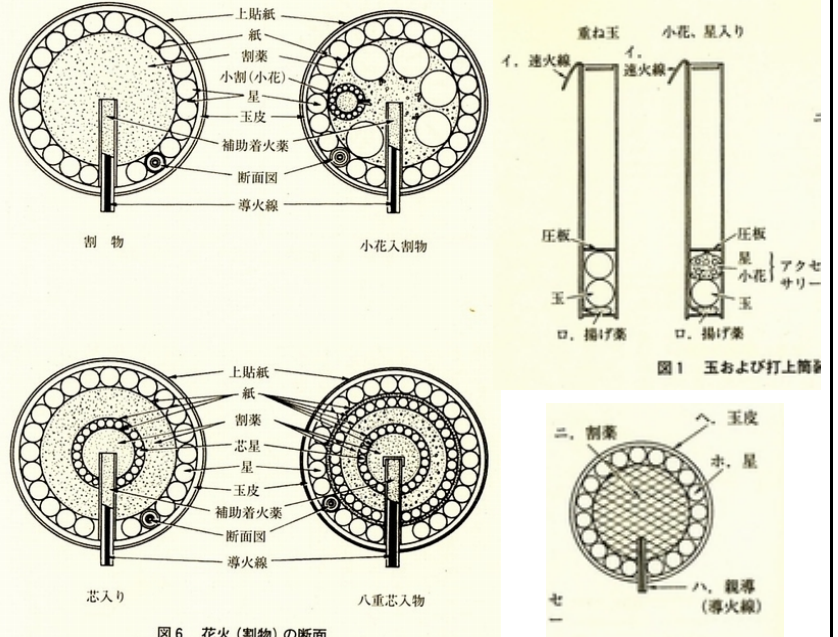


図6 花火(割物)の断面

花火  
打上げ高さ

値段  
[万円]

7号	2
10号	4.2
スターマイン	30
スターマイン	51
バスピダスタ	66
スピ超ダスタ	133
ナイヤガラ	(応談)
三尺	(応談)

